

1. 科目名 (単位数)	産業・労働心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開) (2単位)	3. 科目番号	PSMP6268
2. 授業担当教員	平久江 薫		
4. 授業形態	講義、発表、グループディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	産業・組織心理学の基礎を学んでいることが望ましい	履修形態 (通信教育)	
7. 講義概要	経済や産業の在り方が急速に変化していく中で、企業においてはさまざまなメンタルヘルスに関わる問題が起こっている。メンタルヘルスの不調が企業における生産性の向上を阻害するだけでなく、社会の信頼性にも関わることを踏まえた上で講義を進める。まずは、基本的な組織活動について理解した上で、産業臨床心理学における基本的な理論を学習する。それを踏まえて、様々なケースに関する一次予防・二次予防・三次予防、セルフケア、ラインケア等のメンタルヘルスクエアについて考究する。それらを通して産業場面における心理職がどのように個人のメンタルヘルスや健全な組織環境に貢献できるか、またこの分野における心理士(師)の業務の発展をいかに望みうるかについて考究する。		
8. 学習目標	1. 今日の産業・労働分野におけるメンタルヘルスの問題について理解する。 2. 産業心理臨床とは何かを学び、それを支える諸理論について理解を深める。 3. 産業・労働分野に関わる心理臨床の実践について学び、理解を深める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート 課題	○アサイメント 事前学習(テキストの当日学ぶ項を読んでおくこと)と事後学習(授業で学んだ重要概念等について整理する)を行うこと。 ○期末レポート課題 次の8つの設題(組織内キャリア発達について、ストレスチェック制度について、うつと自殺の予防について、職場復帰支援について、心理教育について、危機介入について、職場ハラスメントについて、職場における連携について)の中から3題を選び、一次予防・二次予防・三次予防の視点で、心理専門職の立場からはどのようなアプローチがでさうのかについて考察しなさい。支援の対象は個人へのアプローチ、職場へのアプローチ、企業へのアプローチの3つの側面について検討すること。		
10. 教科書・参考書 ・教材	【教科書】 金井篤子 編 『産業心理臨床実践一個(人)と職場・組織を支援する』(森田美弥子・松本真理子・金井篤子 シリーズ監修 心の専門家養成講座⑧) ナカニシヤ出版、2016。 【参考書】 山口弘幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房、2010。		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 1. 今日の産業・労働分野におけるメンタルヘルスの問題について理解できたか。 2. 産業心理臨床とは何かを学び、それを支える諸理論について理解したか。 3. 産業・労働分野に関わる心理臨床の代表的な実践活動について学び、考察できるか。 ○評定の方法 1 授業への積極的参加(事前・事後学習、ディスカッション、課題への取り組み) 総合点の50% 2 調べ学習と発表 総合点の50%		
12. 受講生への メッセージ	産業・労働心理学の現場では、現代社会の問題と個人の問題が絡み合い、対策の必要な事態が多く起こっています。これから心理職がますます必要とされる、やりがいのある現場とも言えるでしょう。働く人のメンタルヘルスをどう予防、支援し、企業も人も共により良い方向に向かえるか、考えてみましょう。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 学習の展開及び内容			
1～3. テーマ	産業心理臨床の現在		
第1回 産業心理臨床とは(テキスト pp.3～6)			
第2回 産業心理臨床の方法(テキスト pp.7～16)			
第3回 働く職場の現状(テキスト pp.17～26)			
【学習の目標】	産業心理臨床(産業・労働分野に関わる心理職の実践)はどういったものか、そもそもどのような経緯でそのような活動が生まれたのかについて流れを理解する。現代社会と企業、そして個人がおかれている状況に理解を深め、解決が模索されている中で、現段階ではどのような活動が行われているかを知る。		
【学習の内容】	産業心理臨床の意義、原則を知る。その背景となっている職場の現状について日本の文化社会的な特性もふまえて理解を深める。産業心理臨床がどのようにこれらの課題に取り組み得るのか、考察する。		
【キーワード】	産業心理臨床、ダイバーシティ、キャリアとメンタルヘルス、アセスメント、EAP、働き方、日本企業の特徴、自殺、メンタルヘルス対策		
4～9. テーマ	産業心理臨床を支える理論		
第4回 キャリアの心理学(テキスト pp.29～40)			
第5回 ストレスの心理学(テキスト pp.41～53)			
第6回 産業・組織の心理学(テキスト pp.55～72)			
第7回 産業・労働分野における法律(テキスト pp.73～88)			
第8回 産業精神保健とは(pp.89～101)			
第9回 産業医学の視点から(pp.103～116)			
【学習の目標】	産業心理臨床は極めて実践的な学問であり、さまざまな学問的理論を背景としている。組織における心理的支援を行う上で必要となってくる各理論や法について、知識を深める。具体的には、キャリアの心理学、ストレスの心理		

<p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p>	<p>学、産業・組織の心理学、労働関連法規、産業精神保健や産業医学について理解することを目標とする。応用心理学の各理論（キャリア心理学、ストレスの心理学、産業・組織の心理学）を押さえ、産業心理臨床現場に現れる人の行動について科学的に理解する視点を養う。実践において必ず必要となってくる労働関連の法令について、その変遷も含めて学ぶ。また、より実践的な視点から、産業保健、産業医学のあり方について具体的に理解する。</p> <p>キャリア・カウンセリング、キャリア・デザイン、ワーク・ライフ・バランス、コーピング、職業性ストレス研究、ワーク・モチベーション、対人葛藤、リーダーシップ、組織文化、コーチング、メンタリング、コンサルテーション、労働基準法、労働契約法、労働安全衛生法、男女雇用機会均等法、障害者の雇用の促進等に関する法律、産業保健（労働衛生）、ストレスチェック制度、安全配慮義務、安全衛生管理体制、一次～三次予防、4つのケア</p>
<p>10～15.テーマ</p>	<p>産業心理臨床の実践事例</p>
<p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p> <p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p>	<p>組織内キャリア発達を支援する（テキスト pp. 119～124）</p> <p>うつと自殺の予防について（テキスト pp. 125～129）</p> <p>職場復帰支援について（テキスト pp. 131～138）</p> <p>心理教育について（テキスト pp. 139～144）</p> <p>危機介入について（テキスト pp. 145～152）</p> <p>職場における連携について（テキスト pp. 159～164）</p> <p>前項までに学んできた産業分野を取り巻く現状や、基礎理論を元に、実践の場でどのような問題が扱われているのか、また、どのように支援活動が進められるのかを知る。さらに支援の重要な視点である3つの予防と4つのケアについても理解を深める。産業場面での心理支援にはどのようなことが求められるのか、それぞれが自分なりに考えを深めることを目指す。</p> <p>産業・労働現場で実際に見受けられる事例はどのようなものか。それらに対し、職場内の心理職がどのように問題に取り組み、支援活動が進められるのかについて学ぶ。</p> <p>心理教育、ストレスチェック制度、自殺、職場復帰支援、危機介入、職場ハラスメント、連携</p>